

子供の勉強実態と親の意識

都市生活研究所では、子供の家での過ごし方について、小学生～高校生の子供とその親を対象に調査を行い、その結果を「家で子供が過ごす部屋（2014年3月発行）」「子供に聞いた自分の部屋と家族に対する意識（2014年5月発行）」にまとめた。本レポートでは子供の勉強に着目し、受験期とそれ以外では、勉強実態や意識にどのような違いがあるのか、また、子供の勉強場所に関する親の希望についての結果をまとめた。

■ 受験期かどうかで自宅での勉強時間は大きく異なる。

- ・ 平日の自宅での勉強時間は、受験期の子供の6～7割が1時間以上。受験期以外の子供は2～5割に下がる。
- ・ 中学生は受験期以外でも比較的勉強しているが、高校生は自宅での勉強時間が二極化している。

■ 中学受験期の6割以上、高校受験期の4割以上、大学受験期の2割以上がリビング・ダイニングで勉強している。

- ・ 勉強場所は学齢とともにリビング・ダイニングから子供部屋へと移るが、ダイニングテーブルやリビングの座卓で受験勉強をしている子供も少なくない。
- ・ 受験期には、塾や予備校の自習室を利用する割合が高くなる。
- ・ 高校生は受験期以外でも、学校の自習室や図書館、飲食店など自宅外で勉強する。

■ 親が希望する勉強場所は、小学生はリビング、中高生は子供部屋。

- ・ リビング・ダイニングでの勉強に対する親の満足理由は、「勉強を見てあげられる」「勉強しているかどうかがわかる」。
- ・ 子供部屋での勉強に対する親の満足理由は、「ひとりの方が集中できる」。

調査概要

■ 定量調査

調査時期：2013年7月

調査方法：WEB調査

調査対象：一都三県在住

小学生～高校生男女とその父親・母親

回答者数：1,664組

※詳細は最終ページ参照

■ 定性調査

調査時期：2013年7月

調査方法：訪問デプスインタビュー、

および会場デプスインタビュー

調査対象：一都三県在住 小学生～高校生男女とその母親

回答者数：16組（訪問15組、会場1組）

※詳細は最終ページ参照